

# 牛久：学校周辺に見る自然

第6号 牛久二小

2020年4月15日発行

## ＜ 春の校庭 ～①樹木の花 ＞

皆さん、こんにちは。休校が延長しましたが、いかがお過ごしですか？ 私も新年度の仕事が始まり、皆さんの授業がすぐに始められるように、薬品の整理やいろいろな器具作り、資料作りをしています。この「学校周辺の自然」はボランティアですが、時間のあるときに写真を撮って、校庭の生きものたちの様子をお届けしたいと思います。今回は、牛久二小です。まずは、樹木の花から。



花が終わるころに葉が開いてくるソメイヨシノ(左)と、そのアップ(右)。



グラウンドのフェンス沿いに並ぶ大きなソメイヨシノは、花がだいぶ落ちて葉が開いてきました。花が先に開く桜です。太い幹にはコケがびっしりついているものもありますが、そのくぼみで集団でかたまり冬越ししていたヨコヅナサシガメ(元年度24号)が、互いに離れていくようになりました。冬を越して、離れていくヨコヅナサシガメ。グロテスクな姿だけれど、桜などの葉を食べる害虫を退治してくれる。



満開のカンザン(左：サトザクラの一種)と、そのアップ(右)。花を塩漬けにして、桜湯にして飲む。

ソメイヨシノにかわって、ちょうど満開の八重桜もあります。以前、「サトザクラ」と名札がついていましたが、そのグループのカンザンでしょう。桜餅にはオオシマザクラの葉を塩漬けにして使いますが、桜湯にはこのカンザンの花を塩漬けにして使います。



白い可憐な花を咲かせるアメリカザイフリボク(左)とそのアップ(右)。6月に実が熟すのでジュンベリーともいう。



初夏に赤い実が熟すナツグミ(左)と、7月ころ黒紫色に実が熟すヤマグワの雄花(右)。

牛久二小には他にも、アンズやナツグミ、アメリカザイフリボクなど、花がきれいなだけでなく食べられる実のなる木や、「ハガキの木」として知られるタラヨウ、タネがクルクル回りながら落ちてくるアオギリなどいろいろな木があります。残念なことにカキノキや桑の木(マグワ)はなくなってしまいましたが、これらの木を選んで植えたであろう当時の先生方?の目は素晴らしいと思います。これらの木が、授業にもいかされるとよいなと思います。

ツツジの花も、もう咲き出し、近くには小さなつり鐘のような花をたくさんぶら下げたドウダンツツジも咲いていました。花はまだでしたが、オオムラサキツツジの枝では、教室クラブの子がハラビロカマキリの卵のうを見つけてくれました。どこにあるか分かりますか?よく見つけましたね。教えてくれて、ありがとう!【理科支援員:宮内】



ツツジも咲いていました。花はまだでしたが、オオムラサキツツジの枝では、教室クラブの子がハラビロカマキリの卵のうを見つけてくれました。どこにあるか分かりますか?よく見つけましたね。教えてくれて、ありがとう!【理科支援員:宮内】



1輪だけ開いたツツジ(左上)と、ドウダンツツジのたくさんの小さな花(右上)、ハラビロカマキリの卵のう(下2枚)。